

- 1 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？
 ① 引付衆 ② 守護代 ③ 石築地 ④ 検地帳 ☐ ☐
- 2 平安時代から存在した私有地で、その地からの収穫を主な収入源とした土地のことを何という？
 ① 国衙領 ② 公領 ③ 屯倉 ④ 荘園 ☐ ☐
- 3 モンゴル帝国が中央アジアから支配下に置いた、西側の地域はどこ？
 ① ヨーロッパ東部 ② 東南アジア ③ アフリカ大陸 ④ 地中海沿岸 ☐ ☐
- 4 13世紀後半、モンゴル帝国による二度の襲来を受けた出来事を何という？
 ① 文永の役 ② 元寇 ③ 弘安の役 ④ 承久の乱 ☐ ☐
- 5 鎌倉幕府が京都の監視や西国の統治を目的として設置した機関を何という？
 ① 鎮西探題 ② 六波羅探題 ③ 問注所 ④ 侍所 ☐ ☐
- 6 北条時宗が執権として防戦にあたった、大陸から攻めてきた軍勢を何という？
 ① 宋軍 ② 清軍 ③ 元軍 ④ 鎌倉幕府軍 ☐ ☐
- 7 イタリア出身の旅行家で、フビライ・ハンに仕え、日本を『黄金の国ジパング』としてヨーロッパに紹介したのは誰？
 ① マルコ・ポーロ ② イブン・バットゥータ ③ マテオ・リッチ ④ ザビエル ☐ ☐
- 8 将軍と御家人の関係において、御家人が果たすべき最も重要な任務の一つである、戦いに参加する義務を何という？
 ① 公事 ② 夫役 ③ 番役 ④ 軍役 ☐ ☐
- 9 鎌倉時代、将軍に代わって幕府の実権を握り、代々その職を世襲した一族を何という？
 ① 源氏 ② 北条氏 ③ 平氏 ④ 藤原氏 ☐ ☐
- 10 十字軍の遠征のうち、モンゴル帝国が拡大した13世紀の遠征は、日本の歴史ではどの時代にあたる？
 ① 平安時代 ② 室町時代 ③ 江戸時代 ④ 鎌倉時代 ☐ ☐
- 11 モンゴル帝国（元）の遠征を受けた際、当時の日本を統治していた幕府を何という？
 ① 鎌倉幕府 ② 平安京 ③ 室町幕府 ④ 平氏政権 ☐ ☐
- 12 鎌倉時代、日蓮が開いた新しい仏教の一派を何という？
 ① 浄土宗 ② 臨済宗 ③ 日蓮宗 ④ 浄土真宗 ☐ ☐
- 13 源氏が平氏を滅ぼした最後の決戦が行われた場所はどこ？
 ① 兵庫県神戸市 ② 長崎県平戸市 ③ 福岡県福岡市 ④ 山口県下関市 ☐ ☐
- 14 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？
 ① 日蓮 ② 栄西 ③ 親鸞 ④ 道元 ☐ ☐
- 15 座禅を通して修行し、自己の心を見つめることを重視する、鎌倉幕府から保護を受け武士に広まった仏教の一派を何という？
 ① 禅宗 ② 浄土宗 ③ 浄土真宗 ④ 日蓮宗 ☐ ☐



① 隠す

赤シートで赤字を隠す。白黒なら右の列を折る

② 言う

解説を読んで、用語を口に出す

③ 印を付ける

言えたら□にチェック

問	解説	▼ここで折る	答え	言えた
1	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、 石築地 （元寇防壁）を築かせました。		3 石築地	☐
2	荘園 は、中央の有力者が支配する広大な土地です。		4 荘園	☐
3	モンゴル帝国の支配はアジアにとどまらず、西へ大きく拡大しました。		1 ヨーロッパ東部	☐
4	1274年の「文永の役」と、1281年の「弘安の役」の二度にわたり、元軍が日本に襲来しました。		2 元寇	☐
5	1221年に 六波羅探題 が置かれ、そこには北条氏の一族が就任しました。		2 六波羅探題	☐
6	元軍 の高度な戦術や火器に苦戦しましたが、最終的に 元軍 は撤退しました。		3 元軍	☐
7	マルコ・ポーロ はベネチアの商人・旅行家で、元のフビライ・ハンに長く仕えました。		1 マルコ・ポーロ	☐
8	御家人の重要な義務が 軍役 です。		4 軍役	☐
9	北条氏 は、幕府の最高職である「執権」に就き、将軍を補佐・監視する形で政治を行いました。		2 北条氏	☐
10	十字軍が始まった1095年は日本で院政期（平安時代末期）にあたりますが、戦いが本格化した12世紀から13世紀にかけては、ちょうど鎌倉幕府が成立し、発展していく時期にあたります。		4 鎌倉時代	☐
11	鎌倉幕府 は「御恩と奉公」という主従関係を基盤に、地頭や守護を配置して日本全国の武士を統制しました。		1 鎌倉幕府	☐
12	日蓮が開いた 日蓮宗 は、法華経というお経の題目を唱える「南無妙法蓮華経」を重視しました。		3 日蓮宗	☐
13	1185年、現在の 山口県下関市 にあたる壇ノ浦で、源義経率いる源氏軍と平氏軍が激突しました。		4 山口県下関市	☐
14	栄西 は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。		2 栄西	☐
15	禅宗 は、厳しい修行や座禅を通して、自らの内面を見つめることを教える仏教です。		1 禅宗	☐

言えなかった用語ノート